

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 20 年 1 月 24 日 (2008.1.24)

【公開番号】特開 2002-218011(P2002-218011A)
 【公開日】平成 14 年 8 月 2 日 (2002.8.2)
 【出願番号】特願 2001-5325(P2001-5325)
 【国際特許分類】

H 0 4 M 1/00 (2006.01)

H 0 4 M 1/725 (2006.01)

H 0 4 Q 7/38 (2006.01)

【F I】

H 0 4 M 1/00 B

H 0 4 M 1/725

H 0 4 B 7/26 1 0 9 L

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 11 月 29 日 (2007.11.29)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】発明の名称
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【発明の名称】通信端末装置及び着信時制御方法
 【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

音楽データに基づいて音楽を再生する音楽再生部と、
複数のメロディから一のメロディを着信時の呼出音として選択するメロディ選択手段と

パターン音、又は、前記メロディ選択手段によって選択されたメロディの少なくともい
ずれか一方を着信時に出力する着信報知部と、

を備え、

前記着信報知部は、前記音楽再生部が前記音楽を再生している最中に着信があった場合に、前記パターン音を出力することを特徴とする通信端末装置。

【請求項 2】

前記着信報知部は、

前記音楽再生部が前記音楽を再生している最中に着信があった場合に、再生している音楽を流し続けたまま前記パターン音を鳴らして報知することを特徴とする請求項 1 記載の通信端末装置。

【請求項 3】

前記着信報知部は、

前記音楽再生部が前記音楽を再生している最中に着信があった場合に、再生している音楽の音量を下げると共に前記パターン音を鳴らして報知することを特徴とする請求項 1 記載の通信端末装置。

【請求項 4】

音楽データに基づいて音楽の再生を開始する音楽再生開始ステップと、

前記音楽が再生されている最中に着信があったかどうかを検出する着信検出ステップと

、

呼出音が所定のメロディに設定されている場合、且つ、前記音楽が再生されている最中に着信を検出した際に、パターン音を出力するパターン音出力ステップと、

を有することを特徴とする着信時制御方法。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、携帯電話機、P H S (Personal Handy Phone)、P D A (Personal Digital Assistants)等の通信端末装置及び着信時制御方法に関するものである。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は、上記問題を解決するためになされたものであり、再生中の音楽を停止することなく的確に着信報知できる通信端末装置及び着信時制御方法を提供することを目的とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明に係る通信端末装置は、音楽データに基づいて音楽を再生する音楽再生部と、複数のメロディから一のメロディを着信時の呼出音として選択するメロディ選択手段と、パターン音、又は、メロディ選択手段によって選択されたメロディの少なくともいずれか一方を着信時に出力する着信報知部と、を備え、着信報知部は、音楽再生部が音楽を再生している最中に着信があった場合に、パターン音を出力することを特徴とする。

本発明に係る着信時制御方法は、音楽データに基づいて音楽の再生を開始する音楽再生開始ステップと、音楽が再生されている最中に着信があったかどうかを検出する着信検出ステップと、呼出音が所定のメロディに設定されている場合、且つ、音楽が再生されている最中に着信を検出した際に、パターン音を出力するパターン音出力ステップと、を有することを特徴とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の通信端末装置及び着信時制御方法によれば、音楽再生中に着信があった際に着信報知部がメロディモードになっているときは、着信報知部は、メロディモードからパタ

ーン音モードに変更する。そして、着信報知部は、着信があったことを通信端末装置のユーザに報知するために、パターン音を鳴らす。ここで、「着信メロディ」が曲の旋律であるのに対し、「パターン音」とは、曲の旋律ではなく、例えばピーピーピー等というように音楽的内容を持たないものである。従って、音楽再生中にパターン音が鳴った場合は、再生している音楽とパターン音とは聞き分け易いため、通信端末装置のユーザは、着信があったことを的確に把握することができる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

また、本発明の通信端末装置及び着信時制御方法において、音楽を聴くためのヘッドホンを接続可能であると共に、パターン音は、ヘッドホンから出力されることが好ましい。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

さらに、本発明の通信端末装置及び着信時制御方法において、音楽を再生している最中に着信があった場合に、音楽の音量を下げることを好ましい。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

【発明の実施の形態】

以下、添付図面を参照して、本発明に係る通信端末装置及び着信時制御方法の好適な実施形態について詳細に説明する。尚、同一要素には同一符号を用いるものとし、重複する説明は省略する。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の通信端末装置及び着信時制御方法によれば、音楽再生中に着信があった際に着信報知部がメロディモードになっているときは、着信報知部は、メロディモードからパターン音モードに変更する。そして、着信報知部は、着信があったことを通信端末装置のユーザに報知するために、パターン音を鳴らす。再生している音楽とパターン音とは聞き分け易いため、通信端末装置のユーザは、着信があったことを的確に把握することができる。